

## <牧師室から>

しばらく前から、ネット上に“自粛警察”という単語が上がるになりました。嘘か本当かわかりませんが、公園のベンチで温かい日差しを浴びていると、「家で自粛しろ！」と怒鳴りつけられたとか。怒鳴った人はその公園で、いったい何をしていたのかという、まるで笑い話です。しかし実際にありそうで怖いような気もします。羽目を外した人が川の事故、山の事故など起こせば、住所氏名、家族までネット上にさらされて袋叩きされています。救助する人たちの負担を思いやりなさい、という一見正論ではありながら、その向こう側には、まわりと調子を合わせない奴は絶対にゆるさない、という殺気立った論調を感じます。5/3メッセージ要旨でも触れましたが、ゆるしの福音は同調圧力に抵抗します。福音は聖書の戒めを神の招き、救いの方向性として輝かせるのであって、断罪指標となってしまう事態に抵抗します。私はギャンブル依存症から立ち直ろうと取り組んでいる方々との出会いもあって、もともとパチンコ店に人や車が押し寄せる様子にあまり良い印象がありませんでした。が、しかし、最近の大阪など、パチンコ店の行列に向かって怒鳴りつけたりする人々の様子を見聞きするにつけ、依存の問題以上に“自粛警察”が怖くなっています。さらに言えば、新型コロナウイルスより“自粛警察”の方が怖くなっています。ウイルスは単純に自分が生き延びることに精一杯なのであって、誰彼に思い知らせてやろうとしているわけではないでしょうから。

## <在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思えます。なお難しい方には時間の都合のつく折にささげてください。

教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば（声）を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

### ・「招詞」

招きのみ言葉です。

この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

### ・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。

・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こしての感謝と応答の祈りをささげましょう。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ要旨」をお読みください。

・「祈祷」

メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

牧師の祝祷を受けることはできませんが、「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を受けましょう。

<在宅礼拝プログラム>

- ・招 詞 詩篇 130 篇 3～5 節
- ・賛 美 新生讃美歌 523 番 「主われを愛す」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 使徒行伝 2 章 1～13 節 (口語訳新約聖書 181 頁)
- ・メッセージ 「みんなの者が一緒に集まっていると」
- ・祈 祷
- ・賛 美 新生讃美歌 363 番 「キリスト 教会の主よ」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 「ベネディクション」
- ・黙 祷

<メッセージ要旨>

今年の聖霊降臨記念日(ペンテコステ)は5月31日です。しかし聖書教育はペンテコステに先立ち、本日の聖書の該当箇所として聖霊降臨の出来事をとりあげています。私たちも聖霊降臨の出来事に耳を傾けつつ、ペンテコステに備えましょう。「…みんなの者が一緒に集まっていると…」(1節) 当たり前のようなこの書き出しは、今の私たちにとってかけがえのない恵みです。5/3メッセージ要旨にもありましたように、キリスト教会が世に生まれるためのキーワードの一つに「待つ」がありました。そして「待つ」が成就したところで、

いわゆる教会活動は動き出します。新型コロナウイルス感染拡大を前にして礼拝休止を選び取っている今、私たちはどのように礼拝活動、教会活動再開の展望を共有していくことができるでしょうか。初代教会の起源、聖霊の証しに共に耳を傾けましょう。

「…みんなの者が一緒に集まっていると…」(1節) これは初代教会にとって簡単なことではなかったと考えられます。師である主イエスがいわば非国民、国賊扱いされ処刑されてまだ7週ほどしか経っていません。当局に目を付けられないようにするならまだまだおとなしくしていた方が良い時期です。しかし神の時はこの世の評価、評判を超えたところで進んでいきます。またそこに集まっていた顔ぶれ(使徒1:13~14)はその社会においては互いに異質な顔ぶれであり、中には社会的立場、利害として反目し合うような間柄もあったと考えられます。(マタイ10:2~4、マルコ3:21、ヨハネ7:5参照) とくに主を裏切って間もない今、犯人捜しではありませんが、誰がもっとも悪かったのかを探り始めてもおかしくなかったことでしょう。たとえば1章後半でイスカリオテのユダの裏切りのみが告発され、排除されることで、共同体の更生が図られていたのだとすれば、何らかの分争の火種があったのかも知れません。しかし神の時は群れの弱さ、愚かさのただ中に進んでいきます。

このペンテコステの出来事に、聖地エルサレムに詣でる外国人改宗者たちは驚きます。自分たちが救いの民となるために捨ててきたものと聖地で出会おうとは。滅びの民の文化言語で聖なる神賛美を聞くことになろうとは。自分たちの出自は穢れている、だからこそ改心して清い民になって礼拝賛美にふさわしい身分になったつもりだったであろう彼ら。彼らの中には、聖地から故郷に帰るたびに虚しさを感じていた者もいたかも知れません。故郷に戻る事さえ忌み嫌っていた者もいたかも知れません。しかし今、今まで穢れていると見ていたものと聖別されていると見ていたものとが神賛美によって一つとなっているではありませんか。その驚き(11節)が歓喜となった者もいたのではないのでしょうか。一方で、それまで愚かで空しいとして見下してきたものに、ますます冷たい目を注ぎ続ける者もいたようです。「しかし、ほかの人たちはあざ笑って、『あの人たちは新しい酒で酔っているのだ』と言った。」(13節) けれども聖霊は、そのような冷たい思いの中をも熱い炎として駆け巡っていきます。聖書教育(p.46)にはこのような記事もあります。“…聖霊は「炎のようなものだ」と言われています。「炎」は暖め、燃やすものです。弟子たちの心も体も生き方も、イエスさまを裏切り見捨てた自分の罪やお互いの罪を知って、「冷えきって」いたのではないのでしょうか。…” たとえ過去に人としてどれほど恥じるようなところがあっても、また自分自身の中に、また誰かの中に、冷たく見下してしまうようなところがあっても、聖霊の炎はそのようなところにこそ降ります。そして、差別や劣等感で凍てついているところを暖め、苦しみや悲しみに凍えている命を十字架の主の命、復活の主の希望で燃やそうと生きて働き続けてくださることでしょう。

## <報告>

政府の緊急事態宣言が5月31日までに延長されました。教会としては、礼拝、諸集会、各奉仕を休止としている現在の対応を、5月31日まで延長します。

今後の状況によって期限の変更を行う場合は、改めてお知らせします。

5月31日に予定していた定期総会は延期します。新たな開催期日は今後執事会で協議し、決定次第お知らせします。

- ・日本バプテスト連盟 HP にバプテスト誌4月、5月号が掲載されました。本誌が手元になくても在宅での分かち合いが可能となりました。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス [https://www.bapren.jp/?joumu\\_cat=baptistnews](https://www.bapren.jp/?joumu_cat=baptistnews)

- ・日本バプテスト連盟 HP に聖書教育誌4月～6月号が掲載されました。本誌が手元になくても在宅での教会学校の学びが可能となりました。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス <http://www.bapren.com/>

- ・日本バプテスト連盟宣教研究所 HP に「宣教ニュースレター」HP 限定号外、および「新型コロナウイルス感染拡大に伴うストレスに対処するための視点」が掲載されています。

HP アドレス [http://senken-bap.com/category/news\\_letter/](http://senken-bap.com/category/news_letter/)